

令和6年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価（3月6日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した授業を実践する。 ○自分も他者も大切に、共感的な人間関係を育成する教育活動を実践する。	①児童・生徒の実態を踏まえ教科等の横断的視点でねらいを明確にした授業を実施する。 ②児童・生徒同士のかかわりあいを促進し、学びを深める授業を展開する。	①指導案を工夫することで、教員が教科等の横断的な視点と、ねらいの関係性を意識し、捉えやすくする。 ②授業の中で、児童・生徒がお互いにかかわりあい、学びを深める場面を明確化して、授業実践を行う。	①教科等の横断的な視点を意識して授業づくりができたか。また、ねらいは明確だったか。 ②かかわりあい、学びを深める場面を取り入れた授業づくりができたか。	①指導略案や学習内容表の活用、授業を見合うなどして、教科等の横断的視点を意識しねらいを明確にした授業づくりができた。 ②意図的な場面設定やICTを活用した環境設定を行うことでかかわりあいを意識した授業づくりができた。	①教科等の横断的視点を意識した授業づくりが一人ひとりのニーズにつながっているか確認していく。 ②発表の場面や、協力する場面、日誌の活用、ICTの活用などを通して学び合える授業づくりを進める。	①教科等の横断的な視点を意識した授業づくりができた。アンケートは全体数の2/3を集める必要がある。 ②各教科でICTの取組が進んでいることは評価できる。〈学校評価アンケート【85%】（前年比15%↑）	①教科等の横断的な視点を意識した授業が展開できた。個のニーズとの関連性も考えるべき課題。 ②児童・生徒同士がかかわりあう場面設定ができた。	①授業のねらいと個別の教育的ニーズとの関連性を明確にした授業実践を行う。 ② 今後は、協働する活動を積極的に取り入れ、学びを深めていく。
2	児童・生徒 指導・支援	○一人ひとりの教育的ニーズを捉え、根拠に基づいた組織的な指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権尊重の視点に立ち児童・生徒が安全で安心して過ごせる学校づくりに取り組む。	① 行動観察による見立てとアセスメントとの関連付けについて理解を深め、チームアプローチを意識した支援体制をつくる。 ②教員による適切な配慮のもと、児童・生徒が互いの個性を尊重し、人権が尊重される学級づくりをする。	①研修等を設定し、アセスメントの有効活用について理解を深めるとともに、専門職の活用を通してチームとしての支援を意識する。 ②合理的配慮や、さん付け呼称等の徹底について定期的に確認する機会を設け、人権が尊重される学級づくりをする。	①アセスメントを指導に役立てるとともに、専門職の意見などを活用したチームとしてのアプローチができたか。 ②適切な配慮を意識し、人権を尊重した学習活動がなされたか。アンケート結果 80%を達成できたか。	① 研修会や相談会を通してアセスメントの有用性を確認し、専門職の助言を個別教育計画にも反映するなど、チームとしてのアプローチができた。 ②人権研修を行い、さん付け呼称の標語を作り掲示板で呼びかけた。人権を尊重した言葉かけにつながった。〈学校評価アンケート）【91%】	② 日常の指導場면을アセスメントの視点でとらえ、個別教育計画の作成に専門職がかかわる仕組みを構築していく。 ②人権研修やさん付け呼称を呼びかけるなど、人権を意識した学習活がなされた一方で保護者と教員の意識差がみられた。	①学校評価アンケート項目「アセスメントに基づいて個別教育計画を作成しわかりやすい授業が行われているか？」【85%】 ②・人権尊重について保護者と教員の捉え方の違いについて考えてほしい。 ・保護者のニーズも多様化している。日頃から大切にしているかかわりを継続してほしい。	①アセスメントを活用し、専門職と連携した支援体制が構築されつつある。教員の理解も深まった。 ②人権研修の実施や「さん付け呼称」の定着により、児童・生徒の尊重意識の向上が見られた。一方で、保護者と教員の認識差が課題。	① 専門職の意見を個別教育計画に反映させる仕組みづくりを進める。 ②アンケート結果をもとに全職員で意見交換する機会や保護者との意見交換の場を持ち、意識の差を少なくしていく。
3	進路指導・ 支援	○キャリア教育の視点を持ち、児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことを見据えた教育活動を展開する。 ○児童・生徒のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。	①小学部から高等部までの系統的なキャリア教育の充実を図り、育成したい力を明確にした学習活動を展開する。 ③児童・生徒の状況を踏まえつつ、卒業後の仕事や暮らしに関係する学習内 容を幅広く具体的に設定し、興味や関心を広げる。	①キャリアパスポートを有効的に活用し、児童・生徒一人一人の自分らしい生き方を意識して学習活動のねらいの明確化を図る。 ②ゲストティーチャーや、卒業生、卒業後の進路先等と連携し、講話や体験活動を主とした学習内容を取り入れ、興味関心を広げる。	①キャリアパスポートを活用して、系統性を確認した上で、育成したい力を明確にした学習活動が行えたか。 ②外部機関と連携し、講話や体験活動を取り入れ、児童生徒の興味関心を広げる学習活動ができたか。アンケート結果 80%を達成できたか。	①キャリアパスポートについて議論し、方向性は見えてきたが、必ずしも十分な活用ではなかった。 ②卒業生や近隣企業、外部講師などを適宜活用した。また、近隣施設での体験活動を模索した。地域と連携した進路情報ミーティングを開催した。〈学校評価アンケート）【92%】	①キャリアパスポートの有用性を認識し、効果的な活用方法について検討していく必要がある。 ②外部機関との連携を継続し、新たな協力先を開拓しながら、卒業後の社会生活に結びつく授業を展開する。	①十分な活用ではなかった理由を確認した上で、育成したい力を明確にした学習活動にどうつなげるかが大切である。 ②来年度のせやみつミーティングの充実には賛成であり、規模を広げていてほしい。〈学校評価アンケート）保護者【80%】教員【92%】と差があることが課題。	①キャリアパスポートに対する理解が深まった。今後は効果的な活用が課題である。 ②外部機関と連携した授業が実施され、進路情報提供の機会も確保されたが、保護者のニーズに即した情報提供の工夫が必要。	①キャリアパスポートはひとつの手段であり、系統性を見える形にしていく。 ② せやみつ進路情報ミーティングの充実を図る。進路情報の伝え方を工夫し、ニーズに合わせた情報提供を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価（3月6日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○学校コンサルテーションを基盤としたセンター的機能の充実を図り、校内・地域におけるインクルーシブな学校づくりを推進する。	①交流及び共同学習の内容の充実を図り、学校間交流や居住地交流などの取組の意義について、地域へ理解を広げる。	①交流及び共同学習の場を創出する。ねらいや位置づけの明確化を図るとともに、出前授業などを通して理解啓発する。	①交流及び共同学習の場の創出ができたか。ねらいや位置づけが明確であったか。交流及び共同学習の取組の意義を地域へ伝えたか。	① GREENEXPO の事業に参加するなど新たな場の創出や近隣の小・中学校との交流など幅広い活動が実施できたが、取り組みの意義の共有が必ずしも十分ではなかった。	①事前の計画、打ち合わせなどを計画的に進め、交流等のねらいや位置づけを明確化して充実した活動につなげる。	①二つ橋小学校との交流は互いを知る上で有意義である。授業を参観できるとよい。〈学校評価アンケート〉【80%】	①地域との連携が進んだ。学校間交流や防災活動の連携も進められた。交流活動のねらいや、位置づけの明確化が求められる。	① 事前打ち合わせを計画的に行い、交流活動のねらいや位置づけを明確化し、学びの効果を最大限に引き出す。
			②ホームページに加えて、近隣自治会の回覧を充実させ、地域の方が来校できる機会を設定する。	②ホームページや広報誌の内容を充実させ、周知するとともに、地域の方が来校できる場を計画する。	②地域への広報を充実させることができたか。地域の方の来校の機会を増やすことができたか。	②ホームページや地域の回覧板を活用して広報を充実させた。せやみつ進路情報ミーティングを開催し地域の方の参加機会を増やすことができた。	②せやみつ進路情報ミーティングの継続的な実施に向けて検討していく。	② ・地域との関係づくりや交流を頑張っていると感じた。 ・施設開放の利用が進んだ。〈学校評価アンケート〉【85%】	②ホームページや地域の回覧板での広報は充実できた。	② 地域の行事等との連携や広報活動の方法を模索し、今後も来校の機会を増やしていく。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心な教育環境の整備に取り組む。	①PTA と連携した防災研修や訓練等を行い、学校と家庭が連携した安全体制について継続的に改善を図る。	①PTA と連携した防災研修や訓練の実施に向けた連絡調整を密に行い、実施する。防災備品の管理を徹底し、緊急時に備える。	①PTA と連携した防災研修や訓練を実施し、成果を上げることができたか。防災備品の管理徹底が改善されたか。	①PTA と連携した防災研修を行い、実際の体験をもとにして安全体制について考えることができた。防災備品のリスト化と更新ができた。	①学校の防災体制について引き続き、家庭と連携し、継続的な改善を図っていく。	① ・今回の防災イベントのような交流が地域とできるとよい。 ・備蓄品については、近隣施設間で情報共有ができるとよい。	①PTA と連携した防災研修を実施し、安全体制の見直しが進んだ。	①PTA や近隣施設と防災に関する情報交換を進めるとともに、必要な防災備品を順次配備していく。
		○教職員の資質・指導力・専門性の向上を目指し、人材育成と不祥事防止に重点をおき、信頼と期待に応える学校運営と組織づくりを行う。	②教員が自らのキャリアステージに応じてより高い段階に向かうために、主体的に学べる職場環境の充実を図る。	②授業体制の見直しや業務改善を勧め、主体的に学ぶための時間の確保に努めるとともに、研修機会の周知徹底を行う。	②新しい研修体系について理解でき、主体的に活用できたか。	②NISE 学びラボ、筑波大オンデマンド研修、その他外部の研修などを掲示板やTeamsなどで周知した。新しい研修体系については理解し、主体的に活動できた。	②今後も研修機会を提供できるよう、案内のあった研修を掲示板などで周知していく。日常の授業改善については、時間確保の課題が残る。	②学校評価アンケート項目「日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいますか？」保護者結果【78%】	②研修機会はあるが、時間の確保が難しく、働き方改革の視点を持った業務の効率化と見直しが求められる。	②研修や授業の振り返りを行う時間を確保し専門性の向上を図る。
		○組織的な業務の効率化を図る。	③業務支援チームに各チームの仕事を切り出して業務のスリム化を図り、子どもと向き合う時間を確保する。	③教員の働き方改革に関するアンケートを行うとともに、各チームで業務削減案や支援チームへの業務の切り出しを進める。	③アンケート結果を業務改善に反映できたか。各チームの業務を切り出し、削減できたか。アンケート結果 80%を達成できたか。	③務依頼の項目を設け、各チームの業務を一定程度切り出し、削減できた。アンケート結果【78%】	③依頼可能な業務内容の周知や依頼方法の簡略化などに課題がある。	③授業の準備や振り返りの時間が確保できていないという意見が出ている。良い意見だと思う。	③業務支援チームの活用が進められ一定の成果をあげたが、依頼できる作業内容の明確化や周知が十分ではなかった。	③業務支援チームの効果的な活用について職員間で情報共有するとともに、依頼内容や依頼方法の周知など活用促進を図る。